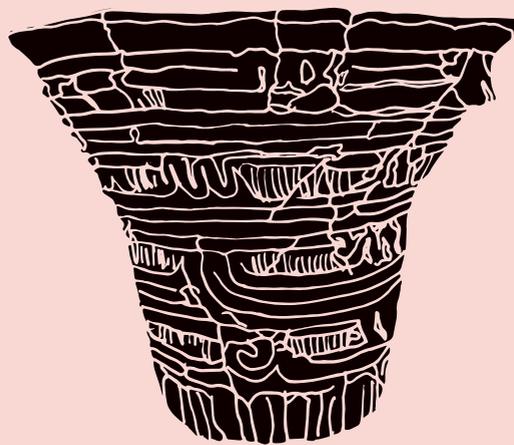


OPEN

うず ま 渦巻きと

か えん じょう もん ど ぎ 火焰の縄文土器

あさひの縄文時代





## ごあいさつ

朝日町の縄文時代はどんな時代だったのでしょうか？

約1万3,000年続いたとされる縄文時代の中で、朝日町では縄文時代中期(約5,500年前～4,500年前頃)と呼ばれる時代の遺跡が最も多く見つかっています。この頃の遺跡には、海岸付近に立地する境A遺跡や馬場山遺跡群、台地に立地する不動堂遺跡や下山新遺跡、山間部に立地する水坪遺跡群や棚山遺跡などがあり、朝日町の縄文人が多様な環境で暮らしていたことがわかります。

令和元年度秋の企画展「渦巻きと火焰の縄文土器 - あさひの縄文時代 -」展では、縄文時代中期の渦巻きの模様がつけられた地元の縄文土器と、新潟県の信濃川中・上流域を中心に出土する火焰型土器を県内外から集めて展示し、この両方の土器が出土する朝日町の縄文時代を紹介しました。土器を通じて、はるか昔の朝日町の縄文世界について、新しい発見をしていただければと思います。

朝日町埋蔵文化財保存活用施設まいぶんKAN



## 凡例・謝辞

1. 本誌は、朝日町埋蔵文化財保存活用施設まいぶんKANによる令和元年度秋の企画展「渦巻きと火焰の縄文土器 - あさひの縄文時代 -」の展示解説パンフレットである。
2. 本企画展は、令和元年10月12日(土)～12月8日(日)の期間で開催した。
3. 本企画展の企画・運営はまいぶんKAN学芸員川端典子が担当した。また、展示資料のうち、不動堂遺跡復元画の解説文は安芸早穂子氏、縄文人フィギュアの解説文は藤森英二氏に執筆いただいた。カラムン製のもじり編みマットのサンプルは、国史跡不動堂遺跡再発見事業実行委員会が実施した事業の中で山本あまやかしむ氏が作成したものを展示させていただいた。
4. 本誌は川端典子が編集を行い、寺崎裕助氏にご寄稿いただいた。
5. 紙幅の都合により、展示した資料のうち掲載していないものがある。
6. 本誌写真1～5、7～10は柳原良平が撮影、11・12・13は川端典子が撮影した。
7. 本企画展開催および図録作成に際し、個人の皆様ならびに関係機関にご指導、ご協力をいただきました。以下に記し、皆様に深く感謝の意を表します。

〔個人〕 ※五十音順、敬称略

安芸早穂子 今井哲哉 小池悠介 佐藤信之 寺崎裕助 中山誠二 藤森英二  
麻柄一志 町田賢一 松井広信 柳原良平 山岸洋一 山本あまやかしむ

〔機関〕 ※五十音順

糸魚川市教育委員会 魚津市教育委員会 国史跡不動堂遺跡再発見事業実行委員会  
黒部市美術館 津南町教育委員会 富山県埋蔵文化財センター



1 | 境 A 遺跡出土 縄文土器深鉢  
(富山県埋蔵文化財センター所蔵)



2 | 天神山遺跡出土 縄文土器深鉢  
(魚津市教育委員会所蔵)



3 | 不動堂遺跡出土 縄文土器台付鉢  
(富山県埋蔵文化財センター所蔵)



4 | 大光寺遺跡出土 火焰型土器  
(魚津市教育委員会所蔵)

### 渦巻きと火焰の縄文土器

各地の縄文遺跡の数が増加する縄文時代中期、朝日町では境 A 遺跡、不動堂遺跡など、拠点的な集落が所在しています。この頃の北陸の土器は立体的で、渦巻きを印象的に配置した美しいものでした。

一方、隣接する地域では、信濃川中・上流域を分布の中心とする火焰型土器が作られています。火焰型土器は北陸の渦巻きの土器と一見似た印象がありますが、口縁部にある「鋸歯状突起」や「鶏頭冠突起」などに代表される特徴は、北陸の渦巻きの土器にはありません。本展示では、本場の火焰型土器と、富山県の火焰型土器や渦巻きの土器を集めて比較しました。



5 | 不動堂遺跡出土 火焰型土器  
(朝日町教育委員会所蔵)

新潟県に接する富山県東部には、火焰型土器の仲間が見られます。朝日町では、不動堂遺跡の第16号住居跡北東区上部覆土から2点の口縁部片が見つっています。



6 | 長者ヶ原遺跡出土 火焰型土器  
(糸魚川市教育委員会所蔵・写真提供)



## 似ている二つの土器とその背景

寺崎 裕助 (新潟県考古学会会長)

ここに似た突起と文様を持った二つの縄文土器(3頁5・6)があります。5は不動堂遺跡から1979年(昭和54)の発掘調査で、6はお隣の新潟県糸魚川市長ヶ原遺跡から1956年(昭和31)の発掘調査でそれぞれ出土しています。

これらは共に深鉢と呼ばれ、主に煮炊に使われた器種です。5は口縁部の大形破片、6は全体をうかがうことができる復元品で、その大きさは高さが29.7cm、口径(内径)が24.9cmです。6の器形は、胴部径よりも口縁部径が大きく、底部からほぼ円筒形に直立する胴部が頸部で「く」の字に外反して、口縁部が内彎する「キャリパー形」という形状です。5も内彎していることが写真でも明らかなことから、同じ器形の口縁部から頸部にかけての破片であることがわかります。ちなみに、この「キャリパー形」のキャリパーとは、遺物の実測で厚さを計測するさいに用いられる計測器具のことです。両者の口縁部から口唇部には「鶏頭冠突起」と呼ばれる特徴的な突起が付けられています。この突起は6から、向き合うように4個付けられていたことがわかります。また、この4個の鶏頭冠突起間の口唇部には、「鋸歯状突起」と呼ばれている小型の突起が3個余り連続しています。文様は、横方向の隆帯で口縁部・頸部・胴部に3分割されています。両者の口縁部と頸部は、粘土紐を貼付・整形した隆帯と半截竹管で下書き後にへら状工具で削り出された隆線などで、孤の部分で背中合わせになる2段の連続孤状文が施文されています。5の胴部文様は欠損しており不明ですが、6の胴部は隆帯で縦に4区画され、その区画内の上位には横方向に「S」字状渦巻文が配され、それ以外には縦方向に、平行沈線文や三叉文風の沈線文が間隔を空けて施文されています。

これらの土器は、「鶏頭冠突起」や「鋸歯状突起」と呼ばれている特徴的な突起を持つことやキャリパー形の器形から火焰型土器の仲間とされています。火焰型土器は縄文時代を代表する土器のひとつとして広く知られており、今から5,000年余り前に信濃川中・上流域(新潟県長岡市～津南町付近)を中心に盛んに作られ使用されました。本場の火焰型土器とこの2つの火焰型土器を比較しますと、文様において大きな違いが認められます。本場の火焰型土器は、文様は渦巻文が中心で、その構成は器面の横方向だけではなく縦方向も意識して割り付けています。一方この2つの火焰型土器は、胴部上位に渦巻文がみられますが、口縁部や頸部には孤状文が連続しています。構成も胴部は本場に類似する傾向にありますが、口縁部と頸部は横方向を強く意識した割付で異なります。その評価は、「典型と呼べない火焰型土器」あるいは「北陸タイプの火焰型土器」といわれています。すなわち、突起や器形は類似しますが、口縁部と頸部の文様や文様割り付けは異なり、それに加えて胴部文様も文様間の隙間(空白部分)が目立ちます。本場である信濃川中・上流域から少なくとも100km近く離れた当地域は、火焰型土器の主要な分布域から外れていますが、外れているからこそこのような火焰型土器が生まれたともいえます。しかし、口縁部や頸部に連続するような孤状文は、新潟県の中越地方や下越地方でも散見できます。

富山県東端の不動堂遺跡と親不知を挟んで30km余りの距離を置く新潟県西端の長者ヶ原遺跡からは、上記のような同タイプの火焰型土器が出土しています。このことは偶然ではなく、同じ土器文化圏に属しているということを示す必然と考えられます。縄文時代中期中頃においてこのような火焰型土器やそれに類似する土器が出土する範囲は、魚津市付近～新潟県上越地方にかけてと予測でき、火焰型土器誕生直前から直後にかけてひとつの地域圏の存在がうかがえます。

## コラム

### 縄文土器の<sup>あっこん</sup>圧痕から人の暮らしと植物を展示する

川端 典子(まいぶんKAN 学芸員)

本企画展では、発掘調査で見つかった遺物とともに、復元画(資料35)や縄文人フィギュア(資料33・34)、編物サンプル(資料32)を展示して、縄文時代のイメージを伝えようと思いました。

縄文時代は、現代とは違い、自然のものだけに頼った時代です。出土品からは、縄文土器や石器、ヒスイの玉製品など、土や石を上手に利用していた朝日町の縄文時代の人々の暮らしぶりを垣間見ることができます。

一方で、植物に関するものはほとんど出土していないため、植物の利用については、これまであまりわかっていませんでした。しかし、出土していない=利用していない、というわけではありません。彼らが利用した植物の痕跡は、実は縄文土器に残っていました。



7 | 境 A 遺跡出土底部圧痕土器片(もじり編み)  
(富山県埋蔵文化財センター所蔵)



8 | 境 A 遺跡出土底部圧痕土器片(網代編み)  
(富山県埋蔵文化財センター所蔵)

縄文土器の底を観察すると、土器作りの際に下に敷いた編物の痕が凹みとなって残されることがあります。この凹みのことを圧痕といいます。編物そのものはなくなってしまっても、一度ついた圧痕は、5,000年を経てもしっかりその痕をとどめて、当時の繊維工芸の様子を伝えてくれます。境 A 遺跡の編物の圧痕からは、植物を加工して素材を作り、何種類もの編み方を使い分けていたことがわかっています【写真7・8】(布目1992)。



9 | 不動堂遺跡出土大豆種子の圧痕のある土器  
(朝日町教育委員会所蔵)



10 | 下山新遺跡出土ササゲ属アズキ亜属種子の圧痕土器  
(朝日町教育委員会所蔵)



11 | 植物繊維のサンプル  
(左からカラムシ編物2点、カラムシ外皮除去、カラムシ外皮付き、アカソ)



12 | 植物のヒゴサンプル  
(左からヒノキテープの網代編み、マタタビツル)



13 | 縄文ガーデンのエゴマ種まきワークショップ

縄文土器に残された圧痕からは、タネなどの痕跡も見つかります。不動堂遺跡の土器からは、圧痕レプリカ法(丑野・田川1991)という手法によって、ダイズ属の種子【写真9】やシソ属の果実など6点の種実圧痕が見つかりました(山本・佐々木2018、川端2018)。また、<sup>にぎ</sup>下<sup>やましん</sup>山新遺跡の土器の圧痕レプリカをデジタルマイクroskopで観察したところ、ササゲ属アズキ亜属の種子【写真10】との所見が得られました(1)。このように、縄文土器を調べることで、朝日町の縄文時代の植物のことが少しずつわかってきました。

これらのことが教えてくれるのは、縄文人は植物を巧みに扱い、様々なことに利用していたということです。しかし、まだわからないことも残されています。たとえば、縄文土器に植物のタネが入っていたことは、土器作りの現場にタネがあったためと考えられますが、それがどのような状況なのかは明らかになっていません。

そこで、まいぶんKANでは、縄文時代の植物利用を身近に感じていただけるように、縄文ガーデン(2)を作り、植物を使った体験を行っています【写真13】。植物の生育にはサイクルがあります。花や実がある時だけではなく、一年を通じて縄文人と同じ気持ちで植物とふれあってみませんか。

(1) 資料の抽出及びレプリカの採取は川端典子が行い、同定は中山誠二が行った。資料はまいぶんKANにある。

(2) まいぶんKANの前庭に作成した、野生アズキ、エゴマ、カラムシなどを植えた庭。種まきワークショップ、収穫体験、草の編物体験などを行っている。

※資料番号はP7資料一覧の番号に一致する。



## 資料一覧

1	火焰型土器 諏訪前遺跡出土 縄文時代	津南町教育委員会所蔵	19	火焰型土器 寺地遺跡出土 縄文時代	糸魚川市教育委員会所蔵
2	諏訪前遺跡出土火焰型土器(資料1)の展開パネル	津南町教育委員会所蔵	20	縄文土器台付鉢 不動堂遺跡出土 縄文時代	富山県埋蔵文化財センター所蔵
3	縄文土器片 不動堂遺跡出土 縄文時代	朝日町教育委員会所蔵	21	縄文土器深鉢 長者ヶ原遺跡出土 縄文時代	糸魚川市教育委員会所蔵
4	火焰型土器 大光寺遺跡出土 縄文時代	魚津市教育委員会所蔵	22	縄文土器深鉢 長者ヶ原遺跡出土 縄文時代	糸魚川市教育委員会所蔵
5	縄文土器深鉢 境 A 遺跡出土 縄文時代	富山県埋蔵文化財センター所蔵	23	編物圧痕土器 不動堂遺跡出土 縄文時代	富山県埋蔵文化財センター所蔵
6	縄文土器深鉢 境 A 遺跡出土 縄文時代	富山県埋蔵文化財センター所蔵	24	編物圧痕土器片 不動堂遺跡出土 縄文時代	朝日町教育委員会所蔵
7	縄文土器深鉢 境 A 遺跡出土 縄文時代	富山県埋蔵文化財センター所蔵	25	もじり編み圧痕土器片 境 A 遺跡出土 縄文時代	富山県埋蔵文化財センター所蔵
8	火焰型土器 不動堂遺跡出土 縄文時代	朝日町教育委員会所蔵	26	網代編み圧痕土器片 境 A 遺跡出土 縄文時代	富山県埋蔵文化財センター所蔵
9	火焰型土器レプリカ(長者ヶ原遺跡)	糸魚川市教育委員会所蔵	27	編物圧痕土器片 長者ヶ原遺跡出土 縄文時代	糸魚川市教育委員会所蔵
10	縄文土器深鉢 長者ヶ原遺跡出土 縄文時代	糸魚川市教育委員会所蔵	28	編物圧痕土器片 天神山遺跡出土 縄文時代	魚津市教育委員会所蔵
11	縄文土器深鉢 境 A 遺跡出土 縄文時代	富山県埋蔵文化財センター所蔵	29	ミニチュア土器 石垣新遺跡出土 縄文時代	魚津市教育委員会所蔵
12	縄文土器深鉢 天神山遺跡出土 縄文時代	魚津市教育委員会所蔵	30	種実圧痕土器片 下山新遺跡出土 縄文時代	朝日町教育委員会所蔵
13	縄文土器深鉢 天神山遺跡出土 縄文時代	魚津市教育委員会所蔵	31	編物素材サンプル	個人蔵
14	縄文土器深鉢 長者ヶ原遺跡出土 縄文時代	糸魚川市教育委員会所蔵	32	カラムン編物サンプル	山本あまよかしむ作・国史跡不動堂遺跡再発見事業実行委員会所蔵
15	縄文土器台付鉢 長者ヶ原遺跡出土 縄文時代	糸魚川市教育委員会所蔵	33	縄文人フィギュア「朗らかなムラ長」	藤森英二作・所蔵
16	石棒 不動堂遺跡出土 縄文時代	朝日町教育委員会所蔵(寄贈)	34	縄文人フィギュア「少女の祈り」	藤森英二作・所蔵
17	火焰型土器 早月上野遺跡出土 縄文時代	富山県埋蔵文化財センター所蔵	35	復元画「不動堂縄文村の初夏」	安芸早穂子作・国史跡不動堂遺跡再発見事業実行委員会所蔵
18	火焰型土器 道尻手遺跡出土 縄文時代	津南町教育委員会所蔵	36	朝日町アート&サイエンス たんけん日記の壁新聞と子どもたちの水の精霊作品	朝日町自然史調査研究委員会

## 参考文献

- 丑野毅・田川裕美 1991 「レプリカ法による土器圧痕の観察」『考古学と自然科学』24, 13-36
- 金三津道子・藤本信幸・松永篤知 2012 『早月上野遺跡発掘調査報告書』富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告書第51集 公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
- 川端典子 2018 「不動堂遺跡出土土器の種実圧痕」『大境』第37号 71-76 富山考古学会
- 木島勉・寺崎裕助・山岸洋一 2007 「24 長者ヶ原遺跡」『日本の遺跡』同成社
- 小島俊彰 1980 『富山県朝日町 不動堂遺跡 第3次発掘調査概報』朝日町教育委員会
- 布目順郎 1992 「境 A 遺跡出土土器底面の編・織目痕」『北陸自動車道遺跡調査報告-朝日町編 7- 境 A 遺跡総括編』57-70 富山県教育委員会
- 藤田亮策・清水潤三 1964 『長者ヶ原』新潟県糸魚川市教育委員会
- 山本 華・佐々木由香 2018 「レプリカ法による土器種実圧痕の同定」『国史跡不動堂遺跡と縄文時代の植物』5-7 朝日町埋蔵文化財保存活用施設まいぶん KAN
- 立教大学考古学研究会 1967 「大貝遺跡の調査」『新井市史第二次調査報告』新井市史編修委員会

## 渦巻きと火焰の縄文土器 —あさひの縄文時代— 展示解説パンフレット

発行日

令和2年3月8日

編集／発行

朝日町埋蔵文化財保存活用施設  
まいぶん KAN

〒939-0723

富山県下新川郡朝日町不動堂214

☎0765-83-0118